（8） 強勢のおかれる語が連続した場合，前者は第2強勢，後者は第1強勢となり，（↘＋↗）の stress pattern をとる。（ただし複合語の場合は除く）

具体的には，形容詞＋名詞（whìte hóuse），副詞＋形容詞（tòo hót），動詞＋副詞（前置詞）（gèt úp）などであるが，whíte hòuse，tóo hòt，gét ùp とならないように注意したい。これは日本語で「白い家」，「ほんとに暑い」といった場合，「白い」，「ほんとに」の方が pitch が高く「家」，「暑い」の方が低いので，そのパタンを無意識に英語の stress pattern の中に入れてしまうために起こる誤りとも考えられる。また疑問形容詞などについても，Whàt tíme is it？が Whát tìme is it？に，Whàt kínd？（どんな種類ですか）が Whát kìnd？にならないように注意したい。

もっとも D. Jones などは double stress と考え，úseful bóok, só sórry などとして，（↗＋↗）の stress pattern としてとらえているが，実際の指導にあたっては，（↘＋↗）のパタンとして取りあつかった方が適切であると思う。

（9） 複合語の場合は，（↘＋↗）の stress pattern に注意する。

複合語のばあい誤り易いのは，nóteboòk, básebàll, mílk bòttle, líving ròom などの（↗＋↘）のパタンよりは，gòld wátch wòman wríter, tomàto sándwich, Mr. Smíth などの（↘＋↗）のパタンである。実際には（↗＋↘）のパタンが多いが，どういう時に（↘＋↗）のパタンになるのかを簡単に説明してやるのも必要なことと思う。

（10） 第1強勢をうける音節の音度（pitch）について注意する。

第1強勢をうける音節は，下降調（terminal fall↘）および文の途中での切れめなどに起る継続維持調（terminal sustain→）で終る phonological phrase の中では，一般に high pitch となり，上昇調（terminal rise↗）で終るものの中では，normal pitch となる。ただし，第1強勢をうける音節が phonological phrase の最末尾にある場合には，下降調ではその音節の後半が low pitch に，上昇調では high pitch に，継続維持調では normal pitch になる。なお intonation curve を引く場合，phonological phrase の末尾に第一強勢をうけていない音節がいくつかある時には，下降調ではその音節はすべて low pitch に，上昇調で high pitch に，継続維持調では normal pitch になり，その他の第2強勢をうけている部分および unstressed の部分はすべて normal pitch とする。

一般に pitch には，very high, high, normal, low の4種類がある。しかし実際の指導にあっては，high, normal, low の3種類で足りる。例をあげる。

Lòok, cláss.

Now that you're hére with us, let's get stárted.

In sénntences, just as in wòrds, some sỳllables are stressed, and some are nòt.

Are you a téacher or a stúdent？

（11） 音声上の結びつき（linking）に注意する。

Linking がリズムの上で重要なことはいうまでもないが，次の3点には注意する。

① 子音＋母音

たとえば，not at all は [nɔt-ət-ɔ:l] と切って発音せず [nɔtətɔ:l] と続け，I got an old typewriter from an aunt of mine は [ai gɔtənould taipraitə frəmənæntəv main] となるように練習をすることが必要である。一応理論的には分かっていても実行することはなかなか難しいことである。

② 子音＋子音

[p], [b], [t], [d], [k], [g] などの破裂子音（stop or plosive consonants）のうち，同じものが二つ重なると，最初の子音を発音するときは，息を出さずにおさえておき，2番目の子音だけを発音するようにする。たとえば：You could drive my car. What time did Jack come back？ Tell it to him at ten o'clock. She keeps a black cat. It's just ten o'clock. また異なった stop consonant が重なった場合，たとえば football のような場合では，[t] と [b] のあいだに〔ə〕が入らないように，唇が [b] の位置になるまでは，舌を口蓋にふれたままにして [t] の音を続けておくことが必要である。

③ 1つの phonological phrase の中にある破裂子音は aspirate（息を強く出して発音）しない。

日本語では普通，子音＋母音の形をとるが，そのパタンを英語の中に持ち込み，不必要な母音を加えないようにする。特に一息で発音する phonological phrase の中にある stop consonants を aspirate させ，誤った母音を入れないように注意する。例えば，They laughed to see me. He returned from his walk. She stayed till five o'clock. I don't care. She finished the work. などの下線部は aspirate しないように注意する。

以上気のついた事だけをあげてみたが，明日からの英語指導の実践に少しでも参考になれば幸いに思います。